

現代都市における住民の風水実践に関する研究 —青島市の事例を中心に—

夏 晨光

Study of Feng Shui Practices among Modern Urban Residents —Focusing on Cases in Qingdao—

XIA, Chenguang

Abstract

The aim of this study is to elucidate the perceptions, interpretations, and diversity of feng shui practices among urban residents, through fieldwork conducted in the city of Qingdao.

Feng shui is a unique theory related to the environment and architecture that originated in ancient China. Its *Qi* based theoretical system is considered a vital factor influencing health, prosperity, and good fortune. However, its methods of practice and interpretation vary according to schools and local physical and cultural environments. Especially in urban areas, feng shui practices are always constrained by objective conditions, such as building regulations and urban development, leading to a constant need for compromise.

To accurately portray the feng shui practices in urban settings, this study conducted both quantitative and qualitative analyses. The quantitative analysis aimed to confirm the prevalence of feng shui, measuring macro-level information such as the average level of feng shui knowledge among residents and the purpose for feng shui practices. Furthermore, through qualitative analysis of nine cases in Qingdao, we reproduced and examined the diversity and flexibility of feng shui practices, as well as the various perceptions of practitioners towards feng shui.

As a result, it became clear that urban feng shui practices do not adhere strictly to the *Qi* based theoretical system. Feng shui practitioners more commonly represent their hopes and anxieties by using concepts such as *Xiang* and *Sha Qi*, alleviating stress through symbolic interpretations and complementary or counteractive actions. Moreover, these feng shui practices are always related to the social backgrounds of the practitioners and are utilized in various scenarios.

Keywords: Qi, Feng Shui Practice, Feng Shui Explanation

要旨

本研究の目的は、青島市で展開されたフィールドワークを通じ、都市住民の風水に対する認識や解釈、および実践方法の多様性について解明することを目的としている。

風水は古代中国に発した独特な環境や建築に関する理論であり、その「気」に基づいた理論体系は人間世界の健康・繁栄・好運などに密接に結びつくとされている。しかし、その実践手法や解釈方法が流派や地域に特有な物理・文化環境によって異なっている。特に都市において、風水の実践は常に都市の客観的な条件、例えば建築審査・都市開発などに制約され、実状に譲歩する状況が常

に見られる。

都市における風水の実態を把握するため、本研究では定量分析と定性分析を実施した。定量分析では風水の普遍性を確かめ、住民の風水知識レベルや風水実践の動機と普及率などマクロな情報を測定した。さらに、定性分析では青島市における9つの事例に対する分析を通じ、風水実践の多様性や柔軟性、および実践者の風水に対する様々な認識を再現し、検討した。

その結果、都市における風水実践は「龍・穴・砂・水」や陰陽五行・十干十二支などの要素に関わる「気」に基づいた理論体系に固執しないことが明らかになった。風水実践者は期待や不安を「象」・「煞気」などの風水概念に置き換え、象徴的解釈に基づいた対抗や補足する行為によって、ストレスを解消していた。さらに、それらの風水は常に実践者の社会的背景に関わり、それぞれ異なる場面で活用されていた。

キーワード：「気」 風水実践 風水解釈

1. はじめに

本研究の目的は、青島市で展開されたフィールドワークを通じ、都市住民の風水に対する認識や解釈、および実践方法の多様性について解明することを目的としている。

中国人の生活において、風水の良し悪しは無視できない大きなテーマである。Chen (2007)によると、多くの中国人は「成功や失敗の原因を人間活動ではなく、健康・繁栄・好運を司る神秘的な地球エネルギーに起因する」(Chen 2007:102)と考えているためである。現代の中国では、八卦鏡・五帝銭・百福図・獅子像・風水球などの風水道具や、「煞気」¹・「犯衝」²・「走背字」³といった風水の考え方も広まり、自分の人生や家族を守る重要な手段として生活に密接に関わっている。したがって、中国文化を研究する際には風水の存在に留意する必要があると考えられる。

風水の世界では万物は原初的なエネルギーである「気」によって形成され、「気」の性質や分量によって、人間世界に様々な影響を与えると信じられている。「気」は「龍・穴・砂・水」に関わる全ての環境要素の調和によって実現されている。さらに、そのような安定的な自然環境や緩やかな建築規制など一連の前提のもとで存在すると考えられる。特に山・川・道・土壌・植生など環境的要素に影響されやすく、「気」に基づいて得られた結果にも大きく影響を与える。

現代の都市は都市開発・建築審査・技術革新など客観的な条件に制約されるため、「龍・穴・砂・水」の調和を求める風水実践はこの環境下で施すことが困難であると考えられている。そのため、都市における風水実践は実状に譲歩する状況がしばしば見られる。例えば、都市でよく見られる道路・陸橋・鉄道・高層ビル・街路樹・音・光・電磁・噪音などの環境的要素は個人の力を超え、窓の増減のような私宅に対する改善工事も、建築の構造や外観に対する規制に

¹ 風水では不吉とされたものを「煞」と呼び、「煞」を経由する気を「煞気」と呼ぶ。「煞気」は不吉な「気」であるため、不幸（絶家、横死など）をもたらすとされている。

² 「犯衝」は犯太歳を指す。太歳は地上にあって、天上の「歳星（木星）」と呼応して動いている。土木工事で土を掘るときは「太歳」の方位を避けなければ災いを招くとされた。風水では「犯衝」が不調和を指し、争いや災いの原因とされる。

³ 「走背字」は人の背後に掛け軸を掛けることを指す。

取り締まられ、個人が自由に行うことができない。最も代表的な例として、葬式管理政策⁴や都市区画などの影響によって、「陰宅風水」⁵の必要な一環である土葬が実質的に禁じられたことが挙げられる⁶。その結果、都市における風水実践は農村部と同様の比較的規制が緩やかな地域で行われ、現実主義に基づいたものが多い傾向にある。

さらに、今日の風水は文化・経歴・教育・身分など社会的背景の違う都市住民に柔軟に理解され、実践されている。例えば今日の都市において、風水師だけでなく、シャーマン・僧侶・占い師なども風水見⁷を行っている。そして、現代都市、特に実用性が求められる環境において、風水実践は常に実践者の財力・信仰・経歴・教育・人間関係などの個人的な背景が絡み合っており、独自性が顕著な解釈に基づき施されている。特に風水伝統の薄い中国北部の都市において、住民に行われた自発的な風水実践は往々にして風水の主流となった。このような風水の実践は人々が日常体験を省み、(行動の)意義を生み出し、未知と向き合う試みを管理するため重要な手段となる (Bruun 2003: 35)。

それらの多様で、柔軟かつ自発的な風水実践の様相は、これまでの研究でほとんど注目されてこなかったが、特に風水研究があまり進んでいない中国の北部地域では顕著である。風水研究に不可欠な一環である都市の風水に有益な情報を提供するため、本研究では中国北部の北京及び天津の二つの直轄市⁸を除いた経済的に最も発展している都市、青島市を対象とした。青島市は山東省に位置する人口が1000万人を超える国際都市である。1891年に膠澳として町が設立されて以来、ドイツや日本による連続的な占領や支配を経験した。1980年代から、海洋産業と国際海運の発展に伴い、中国の主要な港湾都市の一つとして経済成長を遂げた。青島市においては、住民の風水実践は存在するものの、新しい沿海都市としての特性から、これまで風水研究の主要な焦点とはされてこなかった。

1.1 風水の定義と理論体系

風水、または風水説は「古代中国に発し、現代東アジアおよび東南アジアその他の周辺地域にも影響の及んだ、独特な環境判断、環境影響評価法、相地卜宅の方法論の総称」(渡邊 2001: 37)である。また、「(風水は)もともと、中国人の哲学思想の根本的観念——天地人一体の宇宙観——から発達したもので、都市造営や居住空間の構築にあたって、自然環境や地理景観にたいする直観分析と象徴的解釈の理論と方法の知識体系」(張・北原 1997: 125)ともされている⁹。

⁴ 「将应当火化的遗体土葬，或者在公墓和农村的公益性墓地以外的其他地方埋葬遗体，建造坟墓的，由民政部门责令限期改正；拒不改正的，可以强制执行。」(「殡葬管理条例」第五章第二十条)

⁵ 「陰宅風水」は墓に関わる風水を指す。

⁶ 「陰宅風水」は祖先の遺骨によって地中の「生氣」を集め、宅や祠堂に安置された位牌を経由し、子孫に風水の影響をもたらすのである。火葬にした骨灰は遺骨と見なされていないため、「生氣」を収集する機能も備えていないとされている。

⁷ 風水見は風水環境を判断することを指す。

⁸ 直轄市は中国における最高位の都市で、省と同等の一級行政区画に位置づけられる。中国の北部には北京と天津の二つの直轄市だけ存在する。

⁹ 風水は環境を読み取る方法論である観点は他の学者にも論じられた。例えば、「風水思想における自然景観の捉え方に関する研究」(黄 1996)では、「風水は大自然の風景を解説し、自然の法則に基づき、周りの環境

風水という言葉は、晋代の郭璞（276-324）によって著された『葬書（経）』に由来していると一般に認識されている¹⁰。『四庫全書総目提要（巻一百九子部十九）』では郭璞を「それ以降、地理を語る者はすべて璞を始祖とみなす」と論じた。風水の大宗師として、郭璞は『葬書』で「葬は生気に乗じる。経に言っている。気は風に乗じて散り、水に止められ直ちに止まる。古人は気を集め、散らさないようにし、気を流すと止まる。従って、それを風水と名づける」と風水を定義付けている¹¹。

この定義から考えると、風水は「気」を基盤とする理論である。「気」とは「life current」（Kryżanowski 2020）、または「中国に古代から伝わる宇宙・自然・生命を成り立たせている根元的生命力」（黄 1996）とされている¹²。その分量や清濁などの属性によって人間世界に幸運または不運な結果を招くとされた。例えば、澄み渡り広々と流れる「気」は富を築き、立身出世ももたらすのに対し、濁って細々と流れる「気」は貧困延いては家系の断絶に至る不幸に見舞うとされている。

『葬書』では「陰陽の気、吸って風となり、降って雨となり、昇って雲となり、地の中を行き生気となる；生気が地の中を行き、発して万物に生命を与える」と「気」の循環や形態を論じた。つまり天と地の間に循環する「気」の中でも風水を利用した際想定される「生気」は地中を流動しているものである。「生気」は連続する山脈¹³を沿って流れ、特定の地形パターンで集まり、湧き出している（Skinner 1989: 23）。風水はそれらの「生気」に関わる環境要素や地形パターンを「龍・穴・砂・水」と呼び、「龍真」・「穴的」・「砂環」・「水抱」¹⁴に合致する環境が良いとされる。

具体的に、風水の実践においては、山脈や高い建物を「龍」として、川や道路を「水」として認識する。さらに、「龍」と「水」に囲まれた地形は「砂」として、そして「生気」が湧き出る場所を「穴」として扱う。特に「砂」と関連する環境要素は、「龍」や「水」だけでなく、土壌、植生、磁場、建築物やその他の環境要素の位置関係も考慮に入れられる。「龍・穴・砂・水」が示す環境要素は、それぞれの特性や組み合わせにより、異なる効果を生む。例えば、風水においては、ふくよかな「龍」は富局（富をもたらす）、細くて高い「龍」は貴局（出世を意味する）、斜めに広がる「龍」は賤局（卑賤になる）とされる（李 2010: 67）。また、「水」は富を引き寄せる要素とされるが、その方向によっては災厄の原因ともなる。「龍・穴・砂・水」の要素を正確に判断した上で、「穴」に居住空間を設けることで、「生気」を取り込み、その「生

と調和するような建築や空間をデザインするという、自然景観を重視した計画論である」と述べた。

¹⁰ 「今人称風水、一般認為語出晋人郭璞伝古本『葬経』。（史 2005：16）

¹¹ 風水という言葉が『青烏経（青烏先生葬経）』に由来するという主張もあるが、余嘉錫（1884-1955）は『四庫提要弁証』において「古代の『青烏子相墓書（青烏先生葬経）』は既に失われており、この書は唐代以後の人々が偽作したもので、青烏子の名を借りているだけだ」と指摘し、『青烏経（青烏先生葬経）』が唐代以降の偽書であるとの立場を確認した。

¹² 他の研究者も同様の観点を持っている。例えば「cosmic health」（Ogilvie 2018）、「terrestrial energy」（Magli 2019）。

¹³ 唐代の風水名士楊筠松はその著作『撼龍経』で「須弥山は天地の源……人の脊柱と項のように……四肢で世界を四つに分ける……南龍だけが中国に入る」と述べ、すべての山脈が血管のように繋がっていると論じた。

¹⁴ 「龍真」は「生気」が流れる山脈、「穴的」は「生気」が集まる場所、「砂環」は山々に囲まれた環境、「水抱」は穴を曲がりくねる川を指すのである。

「気」が住む人々に影響を及ぼす。つまり、適切に調整された風水の実践は、各種の環境要素を「生氣」によって結びつけ、設計された住空間を通じて人々に影響を与えるのである。その築かれた住空間の種類によって、風水は大別して陰宅風水（祖先の住まいの風水・墓地風水・墓相）と陽宅風水（コミュニティを含む人間の住まいの風水・陽基風水）に分けられる（渡邊 2001: 4）。

しかし、唐代から宋代にかけて、風水の理論は大きく発展し、晋代に生まれた風水説は主に二つの流派に分けられるとされている（陳吉 2012）。一つは、楊筠松を代表とする形勢派（または形法派、江西派）で、主に江西地域を中心として、山の形状や水流の方向に重点を置き、「龍・穴・砂・水」の調和を主眼に置いている。もう一つは、王伋を代表とする理論派（または理気派、福建派）であり、福建や浙江地域を中心として、八卦、陰陽五行、十干十二支¹⁵などの理論を基盤とし、羅經（風水で使用する方位磁針）の利用が欠かせないとされている（陳 1993）。これら二つの流派は、それぞれ独自の理論体系を有し、環境要素へのアプローチや評価基準も異なるため、形勢派と理論派の風水の実践方法にも差異が見られる。そのため、風水は「始は素朴人文地理学的な観察であったに違いないが、その長久の流の間に陰陽五行説・星命説、宿曜や干支等の要素がからまりあい、空間的な相地の術と時間的な択時日相の法などが横堅に雑糅した結果、ますます複雑で多次元的な組織」（牧尾 1974）となった。

1.2 風水研究の概要

前述の通り、風水は天文学・地理学・建築学など多岐にわたる分野を網羅する知識体系であり、特に「気」を中心とする独特の理論体系を持つことによって、物質的な環境要素と人間の禍福との関連性を示唆している。しかしこうした関連性を現代の科学的観点から証明するのは難しく、早い時期の人類学者からは疑似科学や類感呪術とみなされていたこともある。例えば、フレイザー（1922）は彼の著作『金枝篇』で、風水を類感呪術の一形態として評価している。

今日の風水に関する研究は主に二つの観点から展開していると考えられる。一つは風水書に掲載された風水理論を検証した研究である。このような研究は風水に包含されている膨大な知識体系を現代科学の視点で分析し、風水の内容からその合理性を検討している。例えば Mak & Ng（2005）は形勢派が提唱する理想な風水環境モデルと今日の建築理念を検証し、古典的な風水の空間構造の合理性を明らかにしている。また、尚（2005）は、風水説を古代中国における環境設計理論および初級環境科学と見なし、現代建築学の視点から風水が提唱する住居環境理論を検討している。

もう一つは社会における風水の実践を対象とする研究である。このような研究は説話・風水を改善する手法・風水解釈等、風水実践を文化・歴史・民俗・地理などの情報を含めた社会的コンテキストによって解説し、風水の社会的な機能の解明を目指している。例えば聶莉莉ら（2000）は中国の浙江省・福建省・広東省・四川省などの地区で見られる風水伝説や風水実践を

¹⁵ 人はその生年月日によって、十干（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）十二支（子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥）で表した四柱（命式）が与えられる。四柱（年柱・月柱・日柱・時柱）は八の文字からなるため、生辰八字とも呼ばれた。例えば、2006年4月21日16時33分を八字で表現すれば、丙戌壬辰庚辰甲申となる。

地域の文脈で解説して、動的な風水地理の様子を再現した。また、渡邊欣雄（2001）は浙江省・台湾地区および沖縄における多様な風水民俗や風水意識を調査し、時代や社会状況の変遷とともに変わりつつある「コンテクストの風水」を検討している。

風水は社会的コンテクストに根差した文化である。多くの基本文献や指南書（classics and manuals）は共通しているものの、地域や地方による違いが顕著である（Bruun 2003: 2）。特に中国の南部と北部では、墓の構造・葬儀の流れ・住宅の設計など、通常風水に深く関わるとされるテーマにおいて、その解釈や実践する方法が南北地域に特有な地形・気候・経済・歴史・民俗・慣習など物理的文化的な背景の影響を強く受けている。その上、政策・歴史運動・社会イデオロギーなどという社会的背景の違いによって、風水実践は南北の差異だけでなく、中国本土と他の地域例えば香港や台湾との間にも差異が見られる（Bruun 2008: 128）。

しかしながら、それらの研究は主に風水が流行した中国の南部地域¹⁶を対象とし、風水師によって行われ、「龍・穴・砂・水」や陰陽五行・十干十二支などを踏まえた風水の実践に焦点を当てている。風水の名が高い地域以外での風水の実践形態や、都市住民の主観的な風水解釈などのテーマに対し、これまでの風水研究は十分ではないと考えられている。

2. 青島市における風水調査

風水は動的で柔軟な知識体系として、その解釈や実践方法は風水の実践者の異なる認識や経歴によって多様になる。都市における風水の実像を把握するため、本研究では地元住民の風水知識レベルや風水の普遍性などマクロな情報を反映する定量分析と実践手法や風水解釈などミクロな情報を反映する定性分析という両方から調査を展開する。

2.1 アンケート調査（定量分析）

アンケート調査では青島市における住民が共有している風水に対する認識や行為にスポットを当てる。そのため、調査は風水に対する認識（問1－問9）・風水行為（問10－問17）・風水交流（問18－問20）という三種類の質問項目を設定した。風水に対する認識の部分は主に地元住民の理論水準・風水の効果などに関する質問を行い、風水行為の部分は主に風水実践の普及率・費用・目標などに関する質問、そして風水交流の部分は主に周囲（両親・知人など）による影響についての項目である。調査は青島市における風水状況の統計情報を目指していないため、調査対象数は青島市の台帳人口ではなく、年齢層・性別・教育・職業など社会的背景の異なるグループを包含することを前提とする。

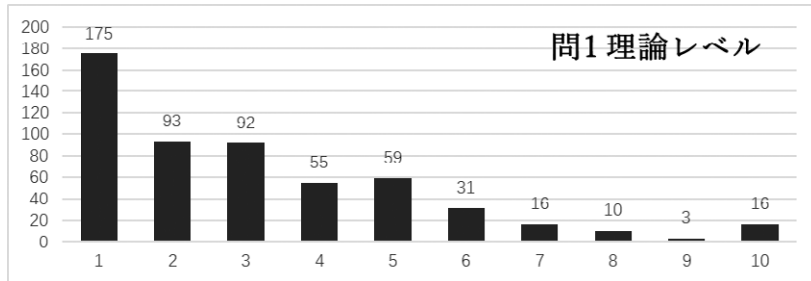
本調査では550人分の有効回答を収集した。

2.1.1 質問項目と結果

問1 風水に詳しいですか。答えは1-10から選んでください（平均 3.12）

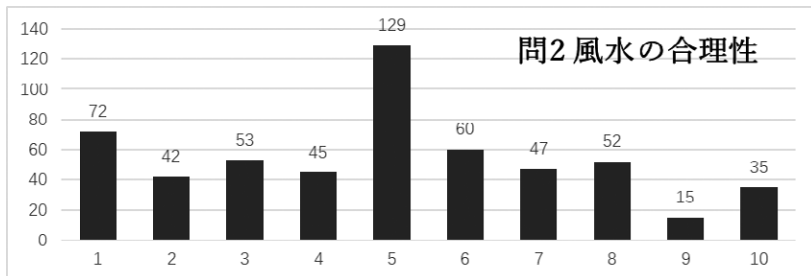
1 全く知らない・・・10精通

¹⁶ 中国南部地域は淮河以南を指し、浙江省、福建省、広東省、四川省、香港などの地区を含める。



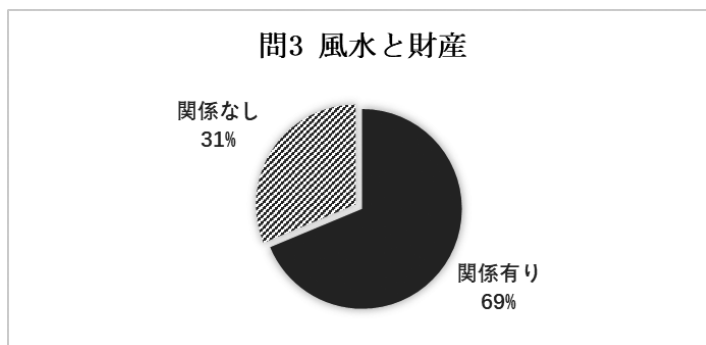
問2 風水の合理性について、どのように認識していますか。答えは1-10から選んでください
(平均 4.96)

1 迷信・・・10科学に合致する



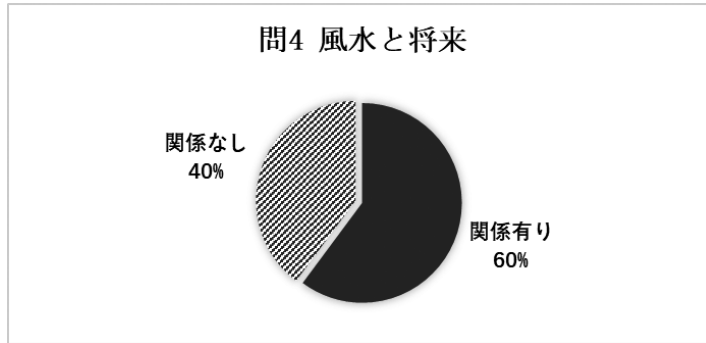
問3 風水と財産は関係があると思いますか。

- A. 関係あり (378人, 69%)
- B. 関係なし (172人, 31%)

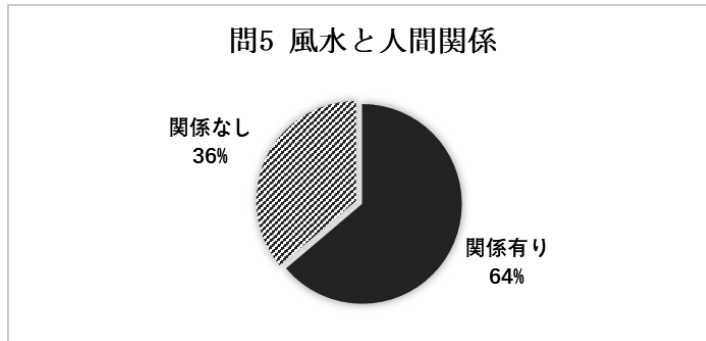


問4 風水と将来は関係があると思いますか。

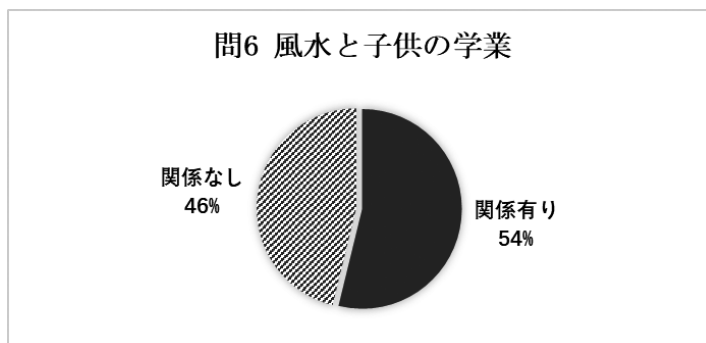
- A. 関係あり (331人, 60%)
- B. 関係なし (219人, 40%)



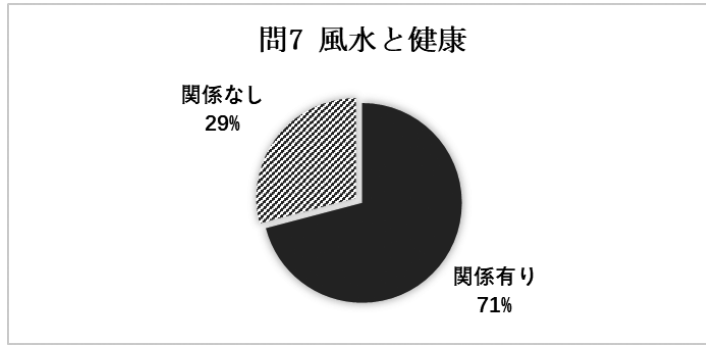
- 問5 風水と人間関係（例えば夫婦・親子・隣人）は関係があると思いますか。
- A. 関係あり（351人，64%）
 - B. 関係なし（199人，36%）



- 問6 風水と子供の学業は関係があると思いますか。
- A. 関係あり（296人，54%）
 - B. 関係なし（254人，46%）

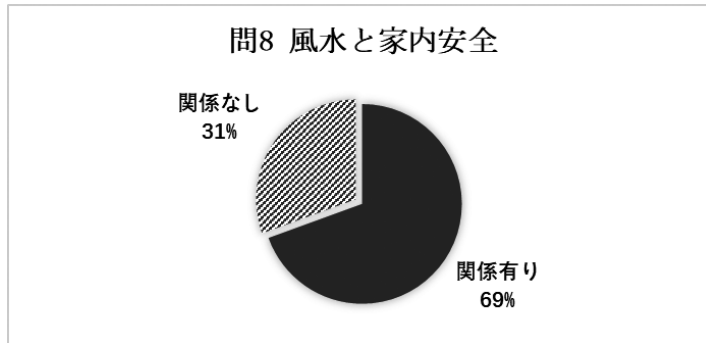


- 問7 風水と健康は関係があると思いますか。
- A. 関係あり（390人，71%）
 - B. 関係なし（160人，29%）



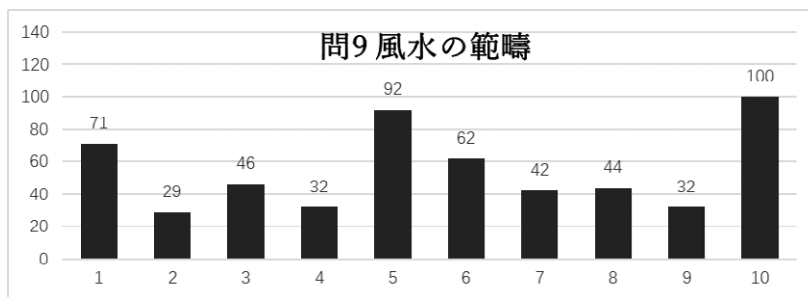
問8 風水と家内安全（例えば無病息災）は関係があると思いますか。

- A. 関係あり（382人，69%）
- B. 関係なし（168人，31%）



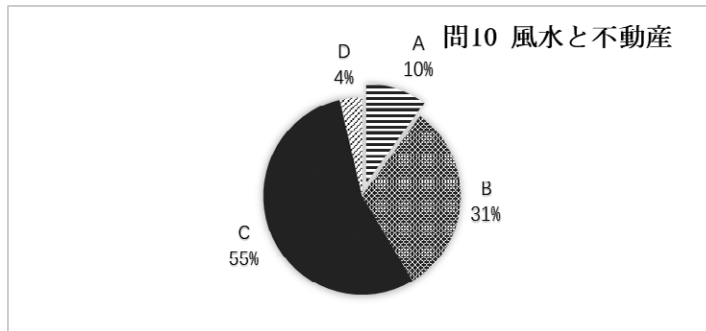
問9 風水が関わる範疇について、貴方はどう思いますか。答えは1-10から選んでください（平均 5.75）

1 建築だけ関わる・・・10全てのことに関連する



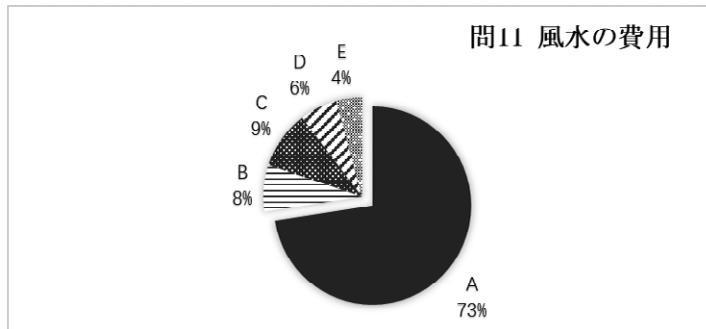
問10 不動産を購入（賃借）する時、風水の影響を加味しますか。

- A. 気にしない（55人，10%）
- B. 気にはするが、価格をより重要視する（173人，31%）
- C. できるだけ風水的に良い場所を選ぶ（302人，55%）
- D. 風水を最も重要視する（20人，4%）



問11 風水のために、いくらお金を支払いましたか。

- A. なし (399人, 73%)
- B. 二千元以下 (42人, 8%)
- C. 二万円以下 (52人, 9%)
- D. 二十万円以下 (34人, 6%)
- E. 二十万円以上 (23人, 4%)

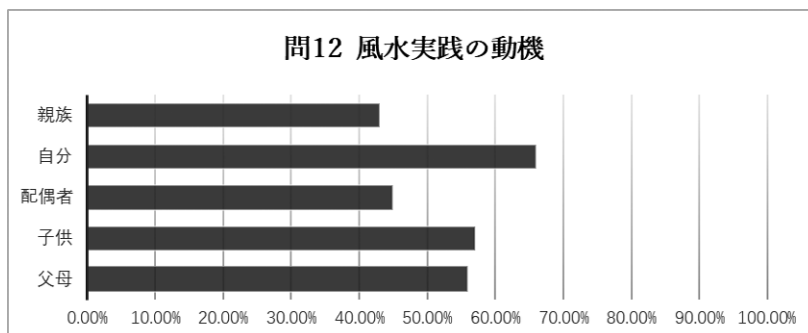


問12 自宅の風水を改善した経験がありますか。

- A. あり (100人, 18%)
- B. なし (450人, 82%)

もしあれば、誰のために実施しましたか。(複数選択, 100人の内)

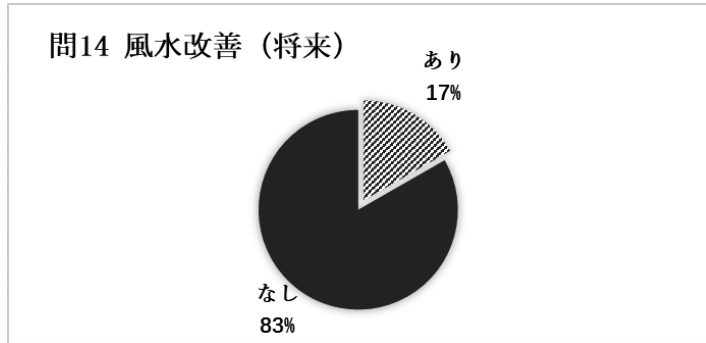
- A. 父母 (56人, 56%)
- B. 子供 (57人, 57%)
- C. 配偶者 (45人, 45%)
- D. 自分 (66人, 66%)
- E. 亡くなった親族 (43人, 43%)



問13 財産のために風水を改善した経験がありますか。

- A. あり (93人, 17%)

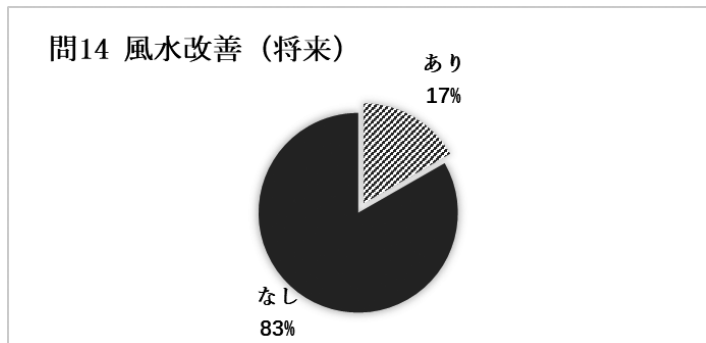
B. なし (457人, 83%)



問14 将来のために風水を改善した経験がありますか。

A. あり (92人, 17%)

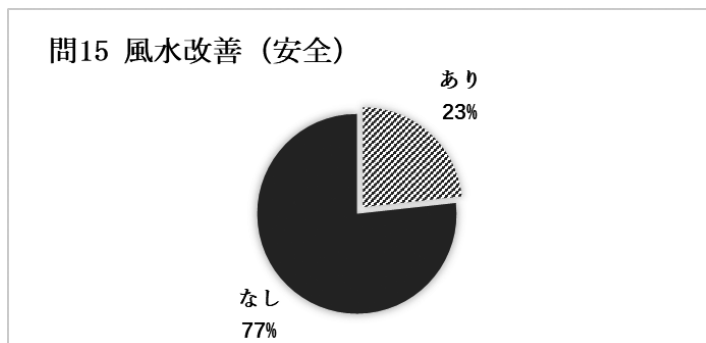
B. なし (458人, 83%)



問15 安全 (家族を含む) のために風水を改善した経験がありますか。

A. あり (128人, 23%)

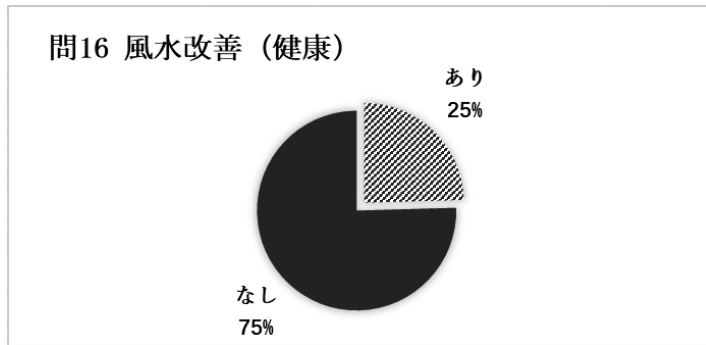
B. なし (422人, 77%)



問16 健康のために風水を改善した経験がありますか。

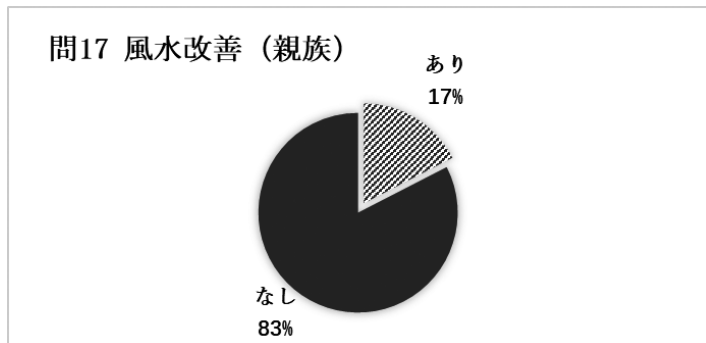
A. あり (135人, 25%)

B. なし (415人, 75%)



問17 亡くなった親族のために風水を改善した経験がありますか。

- A. あり（96人，17%）
- B. なし（454人，83%）

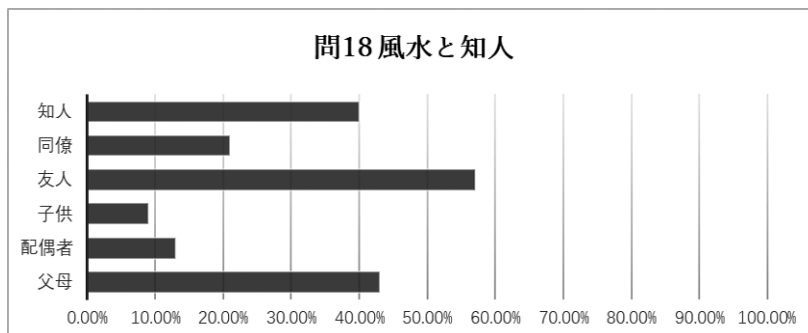


問18 周りの人には風水を信じる人間がいますか。

- A. あり（405人，74%）
- B. なし（145人，26%）

もしあれば、誰ですか。（複数選択，405人の内）

- A. 父母（174人，43%）
- B. 配偶者（52人，13%）
- C. 子供（36人，9%）
- D. 友人（231人，57%）
- E. 同僚（85人，21%）
- F. 知人（163人，40%）



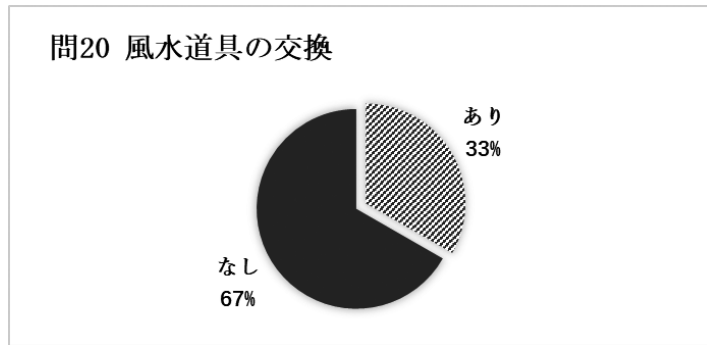
問19 周りの人の風水行為や風水のアドバイスに影響された経験がありますか。

- A. あり（242人，44%）
- B. なし（308人，56%）

もしあれば、誰に影響されましたか。（複数選択，242人の内）

- A. 父母（100人，41%）
- B. 配偶者（24人，10%）
- C. 子供（18人，7%）
- D. 友人（149人，61%）

人, 62%) E. 同僚 (55人, 23%) F. 知人 (102人, 42%)



問20 他人から風水道具をもらいましたか。

A. あり (183人, 33%) B. なし (367人, 67%)

2.1.2 アンケート調査の分析

アンケート調査を通じて、青島市における民間風水の実態が徐々に分かった。まず、風水が市民に広く浸透していることが調査結果で明らかになった。質問1の結果から、約68%の回答者が風水に関する知識をある程度持っていることが分かる。しかし、風水の知識体系に詳しい者（過半数を超えた者）は全体の14%（550人中76人）に過ぎなかった。また、インフォーマントは風水実践に金銭を支払う意向が低いことも分かる。具体的には、質問11の結果から、風水に金を支払ったと回答した人は全体の27%で、その内20,000円以上支払ったと回答した人は全体の10%だけであった。青島市における風水師の料金が40,000円以上であることを考慮すると、多くのインフォーマントは風水師を雇った経験がないと考えられる。これらの結果を総合すると、青島市においては風水説が広く受け入れられている一方で、風水師に頼らない自発的な風水実践が主流であることが伺える。

風水に関する認識について、質問2で示したように、風水には迷信と科学性が共存しているという認識が多く見られた。風水を単純な迷信あるいは純粋な科学とした回答は全体の13%と6%のみであった。風水は「龍・穴・砂・水」で表した物理環境と陰陽五行・十干十二支で表した象徴的解釈を網羅した知識体系として、広範に応用される可能性があるというインフォーマントに認識されている。例えば、質問9で示したように、87%は風水が一般的な建築理論より幅広い課題に対応できると考えており、18%はさらに風水があらゆる課題に適用できるとした。具体的に、質問3から質問8で示したように、風水は財産・将来・人間関係・子供の学業・健康・家族の平安との関連があると捉えられていることがわかった。その中で最も関連があるとされたのが「風水と健康の関連」で、約71%の回答が得られた。次に、「風水と財産の関連」と「風水と安全の関連」について、それぞれ69%の人は関連性があると答えた。しかし、風水にとっても重要なテーマである「風水と子供の学業の関連」に関しては、54%の人が関連性を感じていた。

風水行為については、不動産の購入（賃借り）をする前後によって回答が大きく異なった。質問10と質問12で示したように、およそ90%が不動産を購入（賃借り）する際に風水の影響に

気を配り、半数以上は可能な限り風水の良い家を探そうという態度を示した（質問10）。一方で、住んでいる自宅の風水を改善した経験があるという回答は全体の18%しか見られなかった（質問12）。そのうち、66%が自分自身、57%が子供、56%が両親のために実施している。財産・将来・家族の平安・健康など具体的な科目に対する風水改善（住宅・オフィス・墓地などを含む）については、質問13から質問17で示したように、25%が健康のため、23%が家族の平安のためであるとした。そして、財産・将来・亡くなった親族のための風水改善がそれぞれ17%のみであった。

風水文化の交流や情報源に関して、質問18と質問19で示したように、約74%が周囲に風水を信じる人がおり（質問18）、約44%が周りの人に影響されていた（質問19）。多少の誤差があるかもしれないが、友人は有力な情報源となり、約27%（550人中149人）が友人から情報を得ていた。この数値は他の選択肢より9%以上を上回っている。さらに、約33%が他人から風水用品を受け取った経験があった。

2.2 実地調査

アンケート調査の部分においては、マクロな視点から都市住民に共通している認識や行為を調べたが、質問様式の制限により、風水実践の実態については明らかにできなかった。それゆえ、本節では都市住民の様々な風水解釈や風水行為について注目し、具体的な場面を観察し調査した。

2.2.1 調査法

本研究ではインタビュー調査8回と参与観察1回を実施した。この調査をもとにインフォーマントの風水に対する認識や行為の相違点を踏まえ、まず、インタビュー事例をタイプAとタイプBに分類する。そして、タイプBについては、風水実践による費用の有無によってタイプBの事例をさらに2つに分けた。つまり、8つの事例に対し、風水を迷信視する人（タイプA）と風水を信じつつもお金を払っていない人（タイプB1）、風水を信じる上にお金を払った人（タイプB2）の3つのタイプがあるということである。各タイプの特徴に対する分析は2.2.2.4と2.2.3.6において行い、2.3でアンケート調査と実地調査を合わせ、総合的に検討する。

表1 調査協力者リスト

タイプ	名前	性別	学歴	年齢	私宅状況	婚姻	子供
タイプA	Z	男性	博士	40代	有	既婚	無
	L	男性	学士	40代	有	未婚	無
	F	男性	短大士	30代	無	未婚	無
タイプB1	C	女性	修士	30代	無	未婚	無
	G	女性	学士	30代	有	未婚	無
タイプB2	X	女性	短大士	60代	有	既婚	有
	A	女性	短大士	60代	有	既婚	有
	B	女性	学士	40代	有	既婚	有

2.2.2 タイプAの風水実践について

2.2.2.1 調査事例Z

Zは「風水とは大部分が迷信である」と語った。風水の本質に対して、彼は「風水は大まかに二つの面を持つ。一つは心理上の暗示すなわち精神面だ。例えば掛け軸を据え付ければ、心が強くなる（心裏有靠）。これは鬼神や伝説に関わるため、実効果が判断しにくい。もう一つは現代風水学すなわち物質面だ。これは古人の経験から発展したもので、科学研究にも論証された。例えば山の陽（正面）と陰（裏面）が今日にも使われている」とし、さらには「風水は中医（漢方医学）と同じように古代中国人の認識や思想によって成るものなので、信則靈¹⁷のことだ。つまり個人のそれぞれの認識によって異なり、幸運を風水の影響だと思えば、その現象は風水になるし、不幸を風水の影響だと思えば、それは風水になる。」と付け加えた。なぜ風水を迷信視するかを聞くと、Zは「教育の影響だ。子供の頃からずっとそう教えられてきたから、私は一般的な科学（科学的思維）を信じている」と答えた。

しかしながら、Zは風水を迷信視しつつも、風水による影響について気に留めていた。例えば彼は霊園の周辺やお化け屋敷など風水で不吉とされる場所（墳景房）には住まないと述べた。Zの居住しているマンションには「煞気」を鎮める石敢當が設置されている。彼の話によると、それは家屋の風水欠陥を補うため父から譲り受けたものである。そして、Zは「私はもちろん風水の善し悪しを意識している。でもそれは信じるというより、期待していることだ」とのことであった。

2.2.2.2 調査事例L

Lは風水を「伝統文化」とし、さらに未知の具象化であると表現した。風水は信じないものの、その影響について関心があった。Lは「私が気にするのは風水そのもの（例えば陰宅風水）ではなく、風水によるストレスだ。父は地下（死去）によって縛られ、自由ではなくなったと言った（Lの父は5年前に病気で亡くなった）」と述べ、風水の社会的な影響を肯定した。そして、風水を含める全ての信仰や文化は、（何かしらについて）多角的に模索する手段であるとした。

Lは風水を実践していないが、友人に対し風水に関するアドバイスをを行っている。「これは彼らの心を慰めるためだけだ」とLは語った。

2.2.2.3 調査事例F

Fは風水を「迷信の要素と合理性が共存する歴史的色合いの濃い文化」と語った。その信憑性について、彼は「私は風水に詳しくないから、風水を信じていない。しかし風水を尊重している。霊的な出来事に遭遇する度に風水について考える」と述べた。しかし、彼は風水実践の経験がない。

また、周囲に風水を信じている者がいるかと尋ねたところ、Fは「母は風水を信じていた。以前は家に呪符を掛けたが、今はそれもなくなった」と答えた。

¹⁷ 「信則靈」は信が物事を実現化させる意味を持つ俗語である。

2.2.2.4 タイプAの特徴

タイプAは風水を迷信と科学の融合体と見なした。Fの話によると、それは「迷信の要素と合理性が共存する歴史的色合いの濃い文化」であるという。風水を信じていない者として、タイプAは単に風水を迷信と断言するのではなく、第三者の立場で風水を再解釈する傾向が強いと考えられる。例えばZは風水の内容を心理的な暗示と古人の経験の組み合わせとし、Lは風水を未知の具象化されたものと捉えている。これはタイプAの人の風水に対する説明がアンケート調査で現れた多数のインフォーマント（550人中443人）の観点と一致していることを示している（質問2）。具体的には、説明に微妙な違いはあるものの、多くの人々が風水を迷信と科学の間で揺れ動くものと捉えている。

しかしながら、タイプAによって、迷信と見なされた内容は彼ら自身の行動にも影響をもたらした。例えばZは風水で不吉とされる「墳景房」を受け入れず、Lは風水によるストレスを感じていた。つまり風水をある程度迷信視するにしても、風水の言説を信じているということだ。この影響は精神的・物質的であり、社会的・文化的である。風水が多数の人に共通される知識として（質問1）、それに関わる考えや行為は個人の意志だけでなく、周囲の人、例えば家族や友人、同僚などの意見や行動にも影響されている。ゆえに、風水は迷信であるか否かに関わりなく、風水の影響が実在していると考えられる。Fの話で説明すれば、それは「風水を信じていなくても、それを尊重している」ということだ。これは、問10の結果からみても、大部分の人が住宅風水について意識を持っているということが裏付けられる。

結果として、タイプAは風水を能動的には実践していないが、受容する態度を持っている。例えば、Lは他人を慰める手段として風水を用いており、Zは父親の風水に関するアドバイスを受け入れた。そして、全員が身の回りの風水に関する出来事を認知しており、他人の風水慣習も尊重していた。つまり、タイプAは風水と一線を引くことはせず、柔軟な形で風水と関係を持つと考えられる。

2.2.3 タイプBの風水実践について

2.2.3.1 調査事例C

Cは風水が科学的根拠を有する興味深い理論であると述べている。彼女は中国の昔話「一命二運三風水、四積陰徳五読書」¹⁸を信じ、風水に関心が高い。学生時代にはインターネットで台湾の番組「風水有関係」を視聴し、それをきっかけに風水知識を学んだという。例えば「ベッドを置く場合、向かいに扉がなく、後ろに窓がなく、上に梁がないと良い」等の知識だ。Cは風水実践者でもあり、自分の寝室の風水を改善するためベッドの方向と位置を調整したり、金運に恵まれるために植物を飾ったりしている。

しかしながら、彼女は風水だけでなく、観相やタロットなどにも興味がある。観相書を独学し、生辰八字¹⁹やタロットについて知るためインターネットで占い師に依頼した経験がある。風水と観相の関係について、Cは「具体的に言えないけど、二つ（の理論）には何らかの関連

¹⁸ 清代の文康が著した『児女英雄伝』に記された話の一つ。人生は運命や幸運・不運、風水、善行、読書という五つの要素によって左右されるということを表している。

¹⁹ 十干十二支で表した生年月日

性があると確信している。観相ばかりではなく、(生辰)八字、道教の呪符も風水に関係があると思う」と語った。

風水をめぐる交流や影響について、Cは「特に第三者に影響されていない。家族は風水をあまり信じていないため話題にもならない。自分は(風水に関する)実力不足であるから、他の人にアドバイスすることもない」と述べた。

2.2.3.2 調査事例 G

Gは風水が文化であると同時に科学でもあると述べた。彼女は宇宙全息論²⁰を信じるため、全ての物事を宇宙の縮図と見なし、風水は諸々の関連し合う物事の一つであると考えている。それに対し、Gは「異なる変化や発展を遂げていても、同じ規則、例えば陰陽五行などに基づいている。それは宇宙や自然に対する観察を基とした古人の経験だ。そのため、風水は迷信ではないし、(風水を)迷信とするものは風水に詳しくないからだ」と説明した。そして、Gは万物にはそれぞれ異なる磁場があり、磁場の善し悪しによって好影響あるいは悪影響をもたらすとした。例えば「枯れた花が衰弱を象徴するため不吉である」や、「不規則な形の石は病気を招くため置かない」、また「空いた花瓶は悪いものを寄せやすいので室内に置かない」などである。結果として、Gは風水のルールを遵守して、住宅を移住するにも経済的条件が許す範囲内で最も良い風水を選ぶという。

GはそれらのSNSで習った風水知識や風水禁忌を自宅で実践するだけでなく、生活経験として友達にも紹介した。例えば、Gはある友達の経験を語った。

「彼女は毎回家に帰る際、必ずお手洗いで手を洗ってから子供に触る。なぜなら、外に出ると不潔なものを寄せ付けるからだ。それが子供に悪影響をもたらすし、マナーとしてもそのルールを守る。」

風水に接するきっかけとして、Gは父のことを語った。

「母はキリスト教を信仰しているが、父は(中国の)伝統文化に従う人間だ。父は風水に精通している。子供の時家に槐の木があったが、父はそれが不吉と言って結局切り倒した。私は母より父を信用している。」

2.2.3.3 調査事例 X

XはCの母親である。Xは風水が気持ちと寿命に関わる大切な文化であると述べた。風水に対して、彼女は信則霊という信念を持ち、「完全に信じなくても、畏敬の念を持つべきだ」と語った。風水の重要性を説明するため、Xは学校で出会った二つの出来事を語った。

「学校の元正門は上清路に面していた。風水ではそのような状況を路衝と呼ぶ。そこでは学校は毎年2人の若い教師が事故や病気で亡くなった。私の親友も授業中に心臓病でなくなった。そのあと学校は元正門を閉じ、新しい正門を作った。それによって、以前のような事故もなくなった。」

²⁰ 「宇宙全息論」は理論物理学の概念で、宇宙の情報や出来事が宇宙の体積ではなく、宇宙の境界(表面)に保存されるという考え方を指すのである。Gはここでいう「宇宙全息論」が元の概念ではなく、宇宙における万物が関連し合うことを指している。

もう一つの出来事はキャンパスの風水に関する物語である。Xによると、新しいキャンパスを建設する際、元墓地であったキャンパスの陰気を鎮めるため、風水師の助言に従い、数キロの金を建設用地に埋めた。

「家族は風水をあまり信じていない」という娘（C）の語りとは異なり、Xは風水の影響に関心を持っている。例えば風水を改善するために彼女は「煞気」を鎮める泰山石を窓辺に置き、財をもたらすため開眼したプレスレットをCに買った。Xは風水が良くなると、心が慰められると考えている。そのため、Xは風水の禁忌にも気を配っている。例えば「ベッドを扉に対面させない」ということや「扉に鏡を掛けない」などである。それらの風水の情報はSNS（ティックトック等）や雑誌から得ることが多い。さらに、風水が人格にも影響し、善行を積むと運に恵まれると信じている。

風水のほか、Xは仏教も信仰している。彼女によると、「旅行中にお寺を通ったら、必ずお参りする。こういうこと（風水と仏の影響）について、私はその存在を強く信じている（寧可信其有、不可信其無）」。仏教に対する信仰はXだけでなく、娘のCも持っている。Xの話によると、Cは毎年必ず湛山寺に参拝し、彼女自身もCの行動に影響を受けた。しかしながら、XはCに対し風水に関する知識や経験を助言しようとした際、Cは反発した。

風水を接触するきっかけについて、Xは幼少期の経験を語った。

「子供の頃、不吉なことをすれば祖母に叱られた。例えば、餃子の皮を破ると、『破』ではなく『中』と言うべきだ。もし言い間違ったら、『童言無忌』²¹と言わせられた。また春節のときは全員赤い服を着て、刃物を絶対触らない。こられる行動は不運を避けるためだ。」

2.2.3.4 調査事例A

Aは青島福彩ビルに住んでいる60代の女性である。元看護師である彼女は長年の間湛山寺でボランティア活動に参加しており、風水にも関心がある。彼女は自分を「(生辰)八字」が柔らかい（靈感が強いこと）と信じている。そのため、「鬼神」（鬼や神に関わる信仰）に畏敬の念を払っている。その理由として、Aは幼い頃の霊的な経験を語った。

「五歳の頃、病弱な姉を背負って、家の近くで遊んでいた時、黒い姿の男の霊に追いかけられた。怖くて姉とともに隣人の家で母が来るまで隠れて過ごした。しかし結局姉は霊に取り憑かれ、高熱で亡くなった。何十年経った今も忘れられない。」

そして元看護師という職業上、亡くなった患者が霊となり、他の重体患者を冥界に連れて行くという場面をしばしば目撃した。

このような経験から、Aは家内安全を最も重要視している。彼女は「長い人生という旅のために、無病息災が一番大切だ」という考えを人生の要とし、多種多様な風水実践を実施している。例えば、寝室の壁に福をもたらす「百福図」を掛けており、テレビ台には富を祈願する魚の木彫りを飾っている。そして、字音や動



図1 百福図

²¹ 子供が無邪気な人間なので、不吉なことを言ってもあしからず。

きに基づいて連想されるものも風水環境を改善する力があると考えており、風水道具として備えている。例えば、喜祥の祥を象徴する象の像や、平安を象徴する花瓶、不運を転ずる地球儀などが挙げられる。

Aは不運を遠ざけることにも強い関心を示している。例えば、窓と対面する壁に「煞気」を防ぐ八卦鏡を吊り下げ、ソファの後ろに掛けられた掛け軸が「走背字」（不運を意味する）であるため、机上に運んだ。どのように今の住居を選んだかと尋ねると、彼女は「七上八下」（七は向上、八は下落）²²を信じており、当時空いている27階と28階のマンションから27階の住宅を選択（購入）した。風水による影響として、彼女は28階に住んでいた福彩センターの元主任が汚職問題で逮捕された例を紹介した。風水道具のほか、Aは住宅の入口に観音像も設置した。正月や旅行の際に、必ずその観音像を洗うと語った。（挿入）



図2 八卦鏡

2.2.3.5 調査事例B

Bは子供を持つ40代の女性である。彼女は大学の頃から風水に関心を寄せ、本で風水知識を勉強した。風水の信者として、Bは自宅で様々な風水実践を行っている。



図3 走背字とされた掛け軸

Bは自分のマンションに三つの主要な衝（風水欠陥）があると考えている。一つ目は近所付き合いを妨げる正門の衝、二つ目は家族関係を害する洗面所と台所の衝（火と水）、三つ目は夫婦関係を害する洗面所と寝室の衝である。衝に対処するため、彼女は様々な改善工事を実施した。例えば、正門の衝に対し、正門の裏面に「五帝銭」を掛け、洗面所と台所の衝に対しては新しい壁を増設し、洗面所と寝室の衝に対しては引き戸を付けた。そして、ほかの細かな風水欠陥に対しても念入りに探し出し、改善した。例えば「不方正」とされた応接室に「金蟾石」（石製の金蟾像）を設置して、応接間に金運を招く水槽を備え、刃物を連想させる形状の天井を改装した。



図4 正門

Bは風水を人間関係と関連が強いと見なし、「門の位置関係というより、むしろ人間関係といったほうが適している」とした。そして、彼女は「山や水が正しく位置すれば、身の周りに悪人がいなくなる」と言って、「風水を改善する人間は人間関係を改善する意欲もある」と述べた。

²² 「七上八下」中国語の四字熟語である。元々不安な気持ちあるいは乱れたさまを形容する言葉であるが、Aは風水判断の標準と見なした。

Bは風水だけでなく、「看事的」（霊能者）も信頼している。Bは経験した霊的な出来事を紹介した。

「ある日私は勉強しない息子を軽く蹴ってしまった。するとその日、足に劇痛が走った。医者に診てもらっても、痛みが治らなかった。耐えられないほどの痛みで、ノイローゼに罹った。このことを知った友人が『看事的』を紹介した。『とりあえずあってみよう』という気持ちで『看事的』と会った。それによると、息子が転生した神様で、連日の劇痛は神様の罰によるものだと彼女に言った。そして、その夜、劇痛が消えた。」



図5 寝室の引き戸

2.2.3.6 タイプBの特徴

タイプBは風水が実用性のある知識または文化と見なす傾向が強いと考えられる。インフォーマントの話によると、それは気持ちと寿命に関わる大切な文化であり、科学的根拠を有する興味深い理論である。そして、人生における様々な場面例えば金運(2.2.3.1)・不吉(2.2.3.2)・病気(2.2.3.3)・福運(2.2.3.4)・人間関係(2.2.3.5)に影響をもたらす理論である。風水は家具・道・門・植物・置物などのような客観的な存在と物理以上の因果関係があり、理想または悲惨な結果を導く力があるとされている。それによって、風水とは物事を見ることで過去や未来に潜む糸口を見出す方法論として、タイプBの人々に肯定されている。Cはそれを「一命二運三風水、四積陰徳五読書」と述べ、風水は善行と努力より大きい影響力があると信じている。その結果、タイプBは風水に深い関心を持ち、風水のルールや禁忌を遵守している。



図6 金蟻石

しかしながら、タイプBが身につけた風水の知識は断片的で曖昧であると考えられる。2.2.3の事例に示されている通り、タイプBの人に行われた風水の実践はほとんど「生氣」に関わっておらず、実践者の自らの経験や周囲の情報源（インターネット、友人、霊能者など）から学んだ知識を基に実施されている。例えばGの引用した宇宙全息論やAの音声や動きに基づいた解釈などによってわかる。これはアンケート調査の結果（問1）と相関性がある。つまり大部分の実践者は風水に精通していないものである。それゆえ、陰陽・五行説・八字等の要素を共通に持つ文化や信仰、例えば仏教・観相なども風水と同一視しており、風水・仏教・観相等は本質が同じであるという曖昧な認識に達した。

さらに、風水のための費用別に実践の相違を調べるため、タイプBをタイプB1とタイプB2に分けた。タイプB1（インフォーマントC・G）すなわち比較的風水に金銭をかけていないインフォーマントは、主に既存するものの管理、例えば家具の位置や方向の調整、装飾品の置き方、日常活動の仕方（禁忌や教養）に関心を払った。一方で、タイプB2（インフォーマン

ト X・A・B) すなわち比較的風水に金銭を費やしているインフォーマントは、新しい風水道具の購入、家具の調整、住宅構造の改築ひいては不動産の購入等の幅広い面において風水知識を応用する傾向にあった。しかし、どちらのタイプも風水師に意見を仰ぐのではなく、自らの解釈によって実施していた。つまり、本調査で観察された風水実践は、それぞれ異なる解釈や規則によって、また多様な形式で行われていた。これは、空いた花瓶は平安を守り (2.2.3.4) また一方では、悪いもの (2.2.3.2) を呼び寄せるという事例によって理解できる。

2.2.4 風水改善リスト

都市における風水の実践は多様な解釈に基づいて行われている。これらの解釈は第一章で説明した「気」の理論体系のみならず、風水の実践者それぞれの異なる認識によるものである。解釈と実践の関連性を説明するため、本文では実地調査で見られた風水の改善をリストで示した。リストにおいて、各改善項目がどの解釈に則て、どのような目的で採用されているかを明示した。そして、その解釈に基づいて分類を行った。

表2 風水改善表

風水項目	解釈	風水の影響	類別
百福図	福が福運を呼ぶ	福運を呼ぶ	縁起
八卦鏡	「(煞) 気」の反射	災いを抵抗する	類感
家具の方向	五行相生	健康に影響する	風水解釈
サボテン	「(煞) 気」を驚かす	災いを抵抗する	類感
象	象は祥, 吉祥を表す	幸運を呼ぶ	縁起
三足金蟾 (石)	説話に関わる	財運を呼ぶ	縁起
地球儀	運が回ってくる	運を呼ぶ	動きの連想
花瓶	瓶は平, 平安	家内安全	音声の連想
五帝銭	五行相生	家内安全	風水道具
(泰山) 石敢當	説話に関わる	「(煞) 気」を鎮める	風水道具
路衝	路は矛, 尖端に刺される	災いに見舞われる	形状の連想

2.2.5 湛山寺

湛山寺は青島市における最も有名な仏寺である。山に面し海が見える湛山に位置し、信者が数多く存在している。特に正月時期には、除夜の鐘を聞きながら無事と平安を祈願するために全国から信者が集まり、その列は数百メートルにもなる。

しかし湛山寺は仏教の寺でありつつも、風水の影響を受けている。境内に立てられた看板には聖厳法師 (釈 聖厳) の仏教と並び、風水および命理と関連すると思われる論述が記載されている。ここには「風水・地理は天体の方位と地理の形態によって人間にもたらす影響を決めるわけである。これは自然的、或いは常識的である……風は空気、延いては天の活力で、水は万物成長に必要なもの、延いては地の活力である〔中略〕仏教の立場からみれば、風水・地理はそれ自身の道理はあるものであるが、真理とは限らない。古くから (仏教の) 祖師たちは深山や峻嶺に道を付け、民を安んじて教化し、並みの山を名山にさせた……彼らは風水・地理の知

識はないが、地理を往々に変え、人為を借りずに自然を変化させた」²³と書かれている。

この観点が当寺の僧侶 M によっても語られた。彼は「時代の流れとともに仏教・道教・儒教は重なり合う部分が見られるようになった。皆（同僚）風水を理解しているが、寺の規制でしなただけだ」とした。そして、M は湛山寺が同じ山に位置している霊園の「煞気」を鎮め、付近の風水を改善する力があると考えている。



図7 湛山寺の看板

2.3 実地調査の分析

実地調査では、地元住民の風水実践で見られる特徴・認識・解釈・慣習などをミクロ的な視点で調査・分析した。

まず風水に対する認識について、風水は迷信であるか否かだけでなく、その認識の強度にも多少齟齬が見られたが、風水とは長い歴史の中でもたらされた文化であるという共通認識を持っていた。その中でも一般的に認識されているものとして、風水は人生の様々な場面において影響力を持つ可能性があるということだ。例えばアンケート調査で言及した健康（問7）・安全（問8）・財産（問3）・将来（問4）・人間関係（問5）などがそれに該当する。それらの影響は2.2の事例で示したように、多様な風水解釈を通して病気・災禍・喧嘩・福運・財運として現れ、風水を信じる者および風水を信じない者の慣習・交流ないし、不動産の購入に至るまでその影響を見せた。そのため、風水は一般的な建築・環境理論より汎用性を持ち、人々の行動を決定づけるような影響力があることがわかった。このことはアンケート調査にも現れている（問9）。つまり、風水に対しその効果を期待し、あるいは畏敬の念を抱く傾向にあり、これはたとえタイプAでも尊重するような態度が見られた。

しかしながら、インフォーマントが持つ風水に対する認識は2.2.3.7でも述べたように、個人によって捉え方が異なり、風水書に載せた「生氣」を中心とした理論体系（1.1参照）と比べると、それは恣意的であり、曖昧である。例えば2.2.3.3と2.2.3.4の調査事例において、インフォーマントは風水と仏教の概念（例えば冥界や観音像）を混合させながら風水実践を行っていた。これは風水に精通していないものによって引き起こされる状況である場合が多いが、2.2.4で異なる様相を見せている。湛山寺の看板に見られるように、住職聖巖法師は、意識的に風水と仏教に関連性を持たせることで仏教の合理性²⁴を説いているが、これは、当寺の僧侶にも受け入れられている観点である。つまり風水と仏教の関連は、都市住民の風水に対する曖昧な認識に

²³ 「至于風水，地理是依据天体之方位及地理之形貌而决定其对于人之影响之好坏利弊，此是属于自然，也是属于常识之……所谓风水，风是空气，是来自空中之活力；水是万物成长之必需，是来自地下之活力〔中略〕因此，从佛教之立场言，风水，地理虽有其道，但未必是决定之道理。古来祖师能于高地峻岭，深山大泽，辟草莽，建丛林，安众养道，成为后之名山……但其无风水，地理之专业知识，且往往能改变地理，不假以人工而有自然变化之现象。」

²⁴ 看板に記されている内容によると、仏教の精通者は風水理論を知らなくても、風水の勝地を見いだせ、風水の本質を自ずから把握する。

よって導かれた状況が多いが、仏教を本職とする者の助言によって導かれた結果でもある。

次に風水行為について、今日の実践行為は三つの特徴があると考えられる。一つ目は主にインテリア風水に着目しているという点だ。例えば家具・縁起物のような置物に対する（風水）意味付けや、壁・門のような住宅構造の修正などを指す。特に私宅の場合、室外に風水欠陥があったとしても八卦鏡の設置や室内の工事によって解決しようとする。二つ目は実践手法が多様であるという点だ。実地調査で観察された風水実践は、一般的に周知された風水理論ではなく、主に個人のそれぞれの解釈に基づき実施されていた。例えばAの地球儀に対する風水解釈や、Gの空き瓶に対する警戒行為などがその例だ。これらの認識は往々にして実践者の経歴や知識背景によって異なり、多様な実践手法の根拠となっている。三つ目は断片的な実践が頻繁にみられるという点である。調査事例に示したように、今日の風水実践は「気」に固執したものでなく、音声・形状・五行関係等によって連想された解釈だけにに基づき行われている。例えば、台所と洗面台の相克関係や路衝に対する対抗などがその事例である。これらの実践は互いに関連しておらず、安全・健康・財産等の課題に対しそれぞれに実施されていた。

最後に、風水の交流と発信について、アンケート調査の結果にも見られるように、風水を信じている人の周辺には風水の信奉者が多く存在している（問18）。彼らは周囲の影響により、しばしば自身が持つ考えと行動決定が揺れ動いている（問19）。特に家族が風水を信じている場合、本人が風水を迷信視するにとっても風水に対し寛容な態度を見せた。そして、テレビ番組・SNSなどの情報ツールは、風水の交流や発信に最も有効な手段となり、情報の普及・発展に貢献している。

3. 考察

本研究では青島市で実施したアンケート調査とフィールドワークを通し、都市住民の風水に対する認識や多様な解釈、および実践で使われていた手法と影響を調査・分析した。本章ではそれらの分析を踏まえ、さらに都市における風水の特徴と社会的な役割を検討する。

まず、多数の風水実践は音声・形状・位置関係・五行属性などに対する解釈に基づいて実施されている。例えば風水改善リストで示した象と祥・魚と余り・水と火・尖端と衝突などがそれに該当する。それらの実践は「気」にもとづいた古典的な風水実践とは異なり、安全・健康・財産など様々な課題に対し、それぞれに改善工事が実施されている。特に制限が多い現代都市において、このような自発的な風水実践は柔軟性が高い傾向にあり、都市住民に広く用いられている。そして、実践の根拠とする論理は仏教・道教・観相など風水に関係のあるとされる信仰や学説も取り入れつつ、実践者自身の経歴・教育など社会的な背景に影響されている。

さらに、今日の都市における風水実践は主に精神的な暗示によって機能している傾向が見られた。Zの「掛け軸を据え付ければ、心が強くなる」から分かるように、風水実践者は心配や不安を「衝」・「煞気」などという風水概念に置き換え、水が火に克つことや鏡が悪影響を返せるような象徴的な対抗や補足する行為によって、ストレスや精神的不安を解消していた。特に不幸な出来事に遭遇した際、風水の力に頼り危険から免れることも都市住民の解決策の一つとなった。そして、風水は他人に関心（安全・財運など）を示す媒介となり、人を慰める手段として利用されている。つまり、風水は古代中国から伝承されてきた環境を読み取る方法論であ

るとともに、都市住民の不安や期待を反映する道具という社会的な役目も果たしている。

しかし、1.2で触れられた「気」に基づき、「龍・穴・砂・水」や陰陽五行・十干十二支などに関わる風水の理論と実践は、都市風水から完全に消失しているわけではない。今回の調査で完全な風水実践が現れていないものの、その存在を簡単に否定することはできない。第二章の事例で取り上げられた多様な風水の解釈や手法、例えば五行説・生辰八字は福建派の理論で、形状や音声の連想は江西派の理論に基づいている。この意味で、「気」に基づいた風水の理論体系は現代の都市においても、実践の準拠枠として人々に認識されていると言えるだろう。

一見矛盾しているように思えるが、このような古典と現代の組み合わせは都市風水に対してより開放的で包容的な枠組みを提供し、それにより現代都市の多様性と複雑さに適応することができると考えられる。その結果、青島市の風水調査で示したように、都市における風水実践は「龍・穴・砂・水」や陰陽五行・十干十二支などの要素に関わる「気」に基づいた理論体系に固執していないことが明らかになった。それぞれ異なる場面で活用されている風水の柔軟な様相は都市風水の特徴であり、異なる社会的背景に基づいた風水に対する認識が調和した結果のように思われる。

3.1 今後の展望について

今回実施した調査では青島市における風水実践の一端を明らかにしたが、風水はより広大で社会的なコンテクストのもとで、綿密に行われている。例えば風水はどのように地域の文化に結びついたかや、風水説話はどのように形成されたか、性別・職業・教育など個人的な背景は人々の観念にどのように影響するかなどという点については本研究で触れることができなかった。そのため、今後は風水実践の手法と解釈だけでなく、実践の結果と根拠を左右する様々な条件、例えば政策・都市開発・地域文化・イデオロギーなどという社会的な背景や職歴・学歴などという個人的な背景についても焦点を当て考察したい。

参考文献

[日本語文献]

黄永融 (1996) 「風水思想における自然景観の捉え方に関する研究」『日本造園学会誌』59 (5) pp.21-24

陳躍 (1993) 「風水の源流及び変遷」『比較民俗研究』7 pp.186-197

張翠萍, 北原理雄 (1997) 「風水の別称からみた風水の原点と本質: 都市計画における風水思想の基礎研究」『日本建築学会計画系論文集』62 (491) pp.125-133

ジェームズ・フレイザー (1922) 『金枝篇』吉岡晶子訳 講談社学術文庫

聶莉莉・韓敏・曾士才・西澤治彦 (2000) 『大地は生きている』てらいんく

牧尾良海 (1974) 「朱子と風水思想」『智山学報』23 pp.361-377

渡邊欣雄 (2001) 『風水の社会人類学』風響社

[英語文献]

Ole Bruun [2003], Feng shui in China: Geomantic Divination Between State Orthodoxy and Popular Religion, University of Hawai'i Press

- Ole Bruun [2008], *An Introduction to Feng Shui*, Cambridge University Press
- Giulio Magli [2019], *Astronomy and Feng Shui in the projects of the Tang, Ming and Qing royal mausoleums: A satellite imagery approach*, *Archaeological Research in Asia* 17 pp.98–108
- Guo-Ming Chen [2007], *The impact of Feng Shui on Chinese Communication*, *China Media Research* 3(4) pp.102–109
- Madeleine Ogilvie, Danny Ng, Erwei Xiang, Maria M. Ryan, Jaime Yong [2018], *Using traditional rituals in hospitality to gain value: A study on the impact of Feng Shui*, *International Journal of Hospitality Management* 72 pp.1–9
- Michael Y. Maka, *, S. Thomas Ngb [2005], *The art and science of Feng Shui – a study on architects' perception*, *Building and Environment* 40 pp.427–434
- Špela Kryžanowski [2020], *Feng Shui in Anthropological Research – Between Perception and Apperception*, *International Journal of Scientific and Research Publications* 10(11) pp.775–782
- Stephen Skinner [1989], *The Living Earth Manual of Feng-Shui: Chinese Geomancy*, London: Arkana
[中国語文献]
- 陳吉 (2012) 「中国風水文化研究」『文化研究』 pp.97–101
- 李靜 (2010) 『図解風水入門』北京：文化芸術出版社
- 尚廓 (2005) 「中国風水格局の構成・生態環境与景觀」王其亨（編）『風水理論研究』天津大学出版社 pp.37–43
- 史箴 (2005) 「風水典故考略」王其亨（編）『風水理論研究』天津大学出版社 pp.16–36
- 武廷海 (2016) 「『漢書・芸文誌』中の“形法”及其在中国城郷規劃設計史上的意義」『城市設計』 pp.80–91